

東北地方 1か月予報

(2月25日から3月24日までの天候見通し)

平成18年2月24日
仙台管区気象台発表

<特に注意を要する事項>

今冬は記録的な積雪となっている所がありますので、融雪やなだれなどに注意してください。

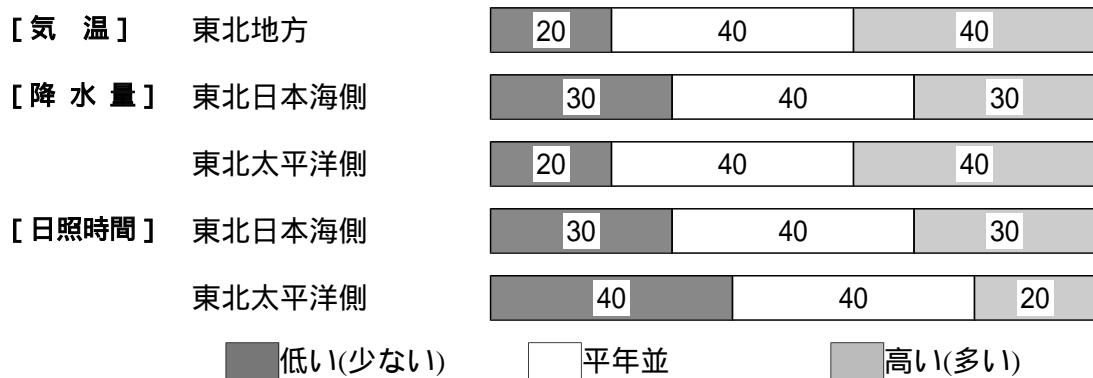
<予想される向こう1か月の天候>

期間の前半は冬型の気圧配置は平年に比べて弱く、その後は天気は数日の周期で変化しますが、低気圧の通過後は一時寒気の影響を受ける見込みです。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

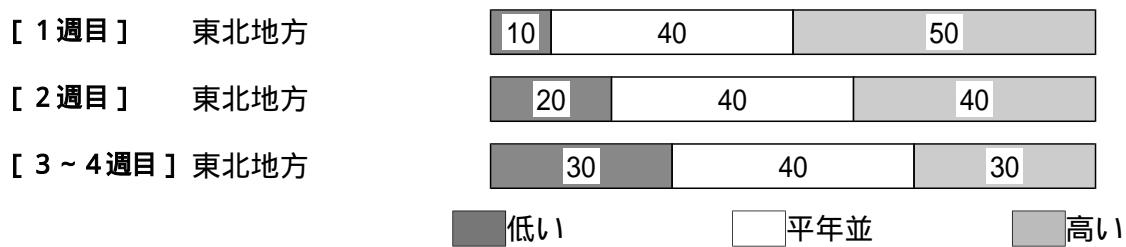
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並か高い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多い、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は高い、2週目は平年並か高い、3~4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 2月25日(土) ~ 3月24日(金)
1週目 : 2月25日(土) ~ 3月3日(金)
2週目 : 3月4日(土) ~ 3月10日(金)
3~4週目 : 3月11日(土) ~ 3月24日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は3月3日
3か月予報:3月23日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	2.8	74.1	151.5	1.8	2.3	3.6
新庄	1.3	104.0	96.9	0.1	0.8	2.1
若松	2.1	58.6	122.3	0.7	1.5	3.1
深浦	1.9	70.5	94.4	0.8	1.4	2.7
青森	1.2	68.5	117.3	0.0	0.7	2.1
むつ	0.7	71.3	130.0	-0.4	0.1	1.5
八戸	1.5	46.1	152.2	0.3	0.9	2.3
秋田	2.4	84.3	111.4	1.3	1.9	3.3
盛岡	1.0	67.5	148.0	-0.3	0.4	1.9
宮古	2.3	77.6	162.6	1.2	1.8	3.1
酒田	3.5	93.1	103.5	2.4	3.0	4.3
山形	2.2	60.9	128.4	0.9	1.7	3.2
仙台	3.8	60.7	163.0	2.7	3.4	4.6
石巻	3.0	57.6	169.5	1.9	2.6	3.8
福島	4.1	63.7	159.6	2.8	3.6	5.0
白河	2.8	58.3	164.1	1.5	2.3	3.7
小名浜	5.6	85.5	171.7	4.6	5.2	6.3

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5 ~ +0.5	83 ~ 111	94 ~ 107
東北日本海側	-0.5 ~ +0.5	88 ~ 107	93 ~ 107
東北太平洋側	-0.5 ~ +0.5	79 ~ 116	96 ~ 106

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.8 ~ +0.7	-0.6 ~ +0.6	-0.4 ~ +0.5
東北日本海側	-0.7 ~ +0.7	-0.6 ~ +0.6	-0.4 ~ +0.6
東北太平洋側	-0.7 ~ +0.7	-0.7 ~ +0.6	-0.4 ~ +0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年2月24日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(2月25日~3月24日):

期間の前半は冬型の気圧配置は平年に比べて弱く、その後は天気は数日の周期で変化しますが、低気圧の通過後は一時寒気の影響を受ける見込みです。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(2月25日~3月3日):

明日(25日)は高気圧に覆われ晴れますが、その後は気圧の谷や寒気の影響で曇りの日が多く、期間の初めと中頃は雨や雪が降るでしょう。

なお、期間の初め、積雪の多い所ではなだれや融雪による土砂災害に注意が必要です。

平均気温は高いでしょう。

2週目(3月4日~3月10日):

冬型の気圧配置は平年に比べて弱いでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では気圧の谷や寒気の影響で、平年に比べて曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

3~4週目(3月11日~3月24日):

天気は数日の周期で変化しますが、低気圧の通過後は一時寒気の影響を受ける見込みです。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では気圧の谷や寒気の影響で、平年に比べて曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

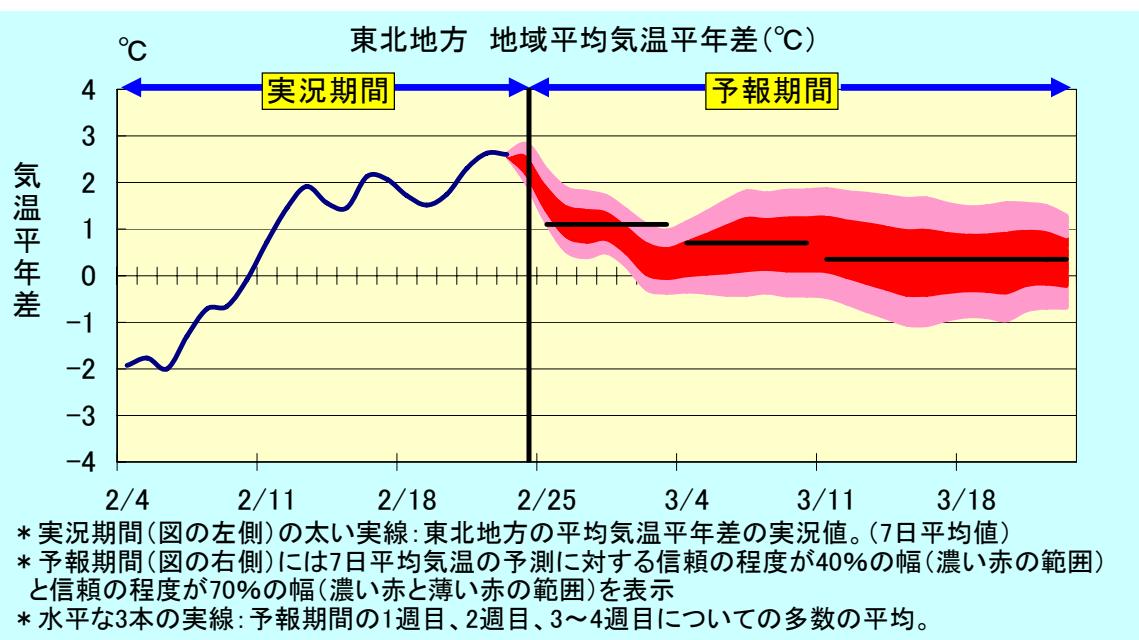
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	11.0日	2.2日	2.6日	6.2日
東北太平洋側	17.9日	4.4日	4.5日	9.0日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目を「高い」、3~4週目を「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から2週目を「平年並か高い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

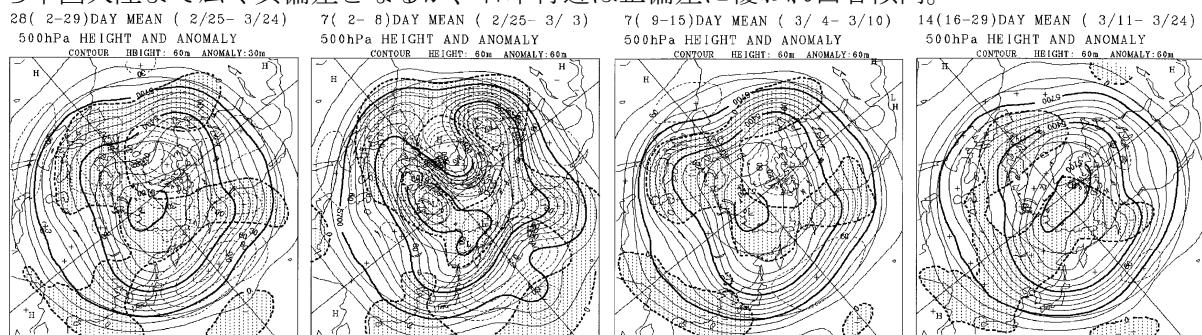


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日本付近は日付変更線付近に中心を持つ強い正偏差に覆われる。中国大陸東岸付近に負偏差が広がり、日本付近は西谷傾向で、低気圧の影響を受けやすい。

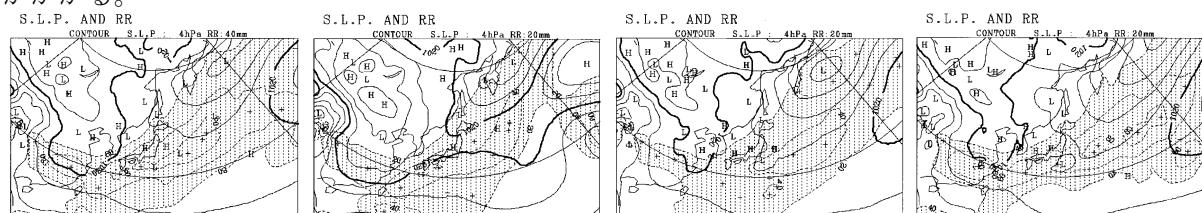
1週目は、月平均と同様に、日本付近は日付変更線付近に中心を持つ正偏差に覆われる。中国大陸東岸付近の負偏差が中国東北区以南。2週目は、西日本は南海上に広がる負偏差に覆われるが東北地方は日付変更線付近に中心を持つ正偏差に覆われる。3~4週目は、アラスカ付近、極から中国大陸まで広く負偏差となるが、日本付近は正偏差に覆われ西谷傾向。



地上気圧と降水量：

月平均では、北太平洋中緯度で高圧部が強く、カムチャツカ半島付近の低圧部は弱い。日本の南海上を中心に降水域がかかる。

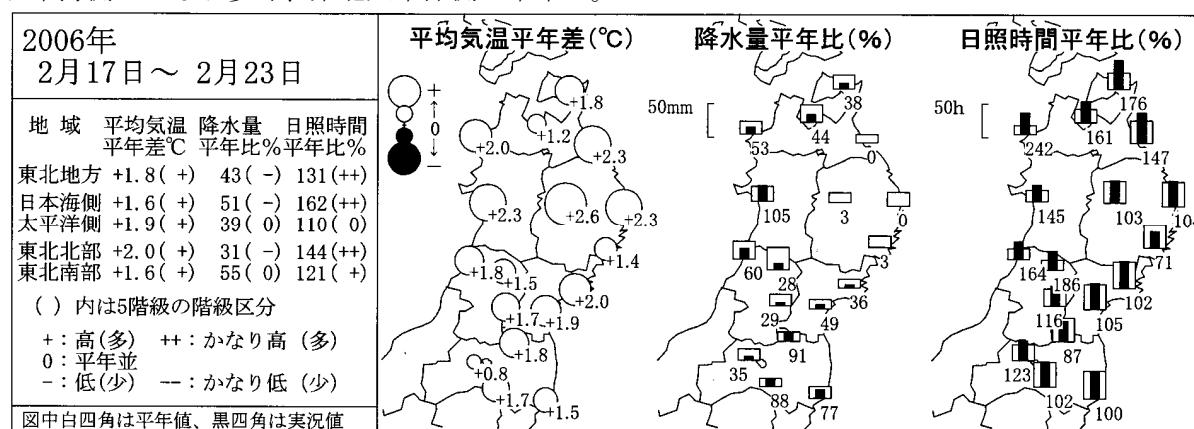
1週目は、大陸の高圧部は強いが太平洋にも高圧部が続く。東日本以南に降水域がかかる。2週目は、日本の南岸に低圧部が予想され日本南岸を中心に降水域が見られる。3~4週目も、日本の南岸に低圧部が予想されるが、カムチャツカ半島の東の低圧部は弱い。南岸にまとまった降水域がかかる。



4. 最近1週間（2月17日～2月23日）の天候の経過

この期間、低気圧や前線が短い周期で通過した。17日は冬型の気圧配置で東北日本海側は曇りや雪となった。その後、18～19日から移動性高気圧の圈内に入り晴れのところが多かったが、秋田では19日に局地的に雨となった。20～21日の夜には日本の南海上を移動する低気圧の影響で太平洋側南部を中心に雨となった。22～23日はオホーツク海付近に中心を持つ低気圧から伸びる前線が東北地方を通過し東北日本海側北部で雨のところがあったが、その後再び移動性高気圧に覆われた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）